

SNS 等を活用した情報発信による仲間づくり

中部家畜保健衛生所

○山田実桜・大石理恵

当所管内の畜産農家は、高齢化や担い手不足等により 5 年間で 27 戸減少した (R2:131 戸 → R7:107 戸)。一部では若手・中堅の後継者が育っているものの点在化しており、交流が希薄となっている。そこで当所は SNS 等を活用し、積極的に情報を発信することで農家のパイプ役になり、経営意欲醸成や仲間づくりに向けた支援を行ったので報告する。

1 取組

1) 特に和牛生産が盛んな阿東地域において、牛の飼養管理や自給飼料生産の様子及び畜産農家の声を紹介するホームページの作成を支援し、県内外に広く仲間づくりを呼びかけた。

2) 一部の畜産農家はパソコンやスマホでメールを活用できるものの、大半の畜産農家は頻繁にメールを確認する余裕がないため、これまでは繁殖検診などの巡回時を利用した資料配布やファックス、郵送やポスター掲示により情報を発信してきた。しかし、巡回時の資料配布や郵送などはタイムラグが発生し、迅速な発信が困難であった。そこで、令和 6 年度から管内の酪農家及び肉用牛農家、農協や市で構成する中部地区家畜改良委員会で LINE を開設し、子牛市場の市況や、各種研修会、管内酪農家によるふれあい体験や共進会等のイベントの様子、暑熱対策など技術的情報を「活きた情報」として発信を行った。

3) LINE は迅速で手軽に行えるものの一方的な配信であり躍動感に欠けるため、令和 7 年度からは、画像や動画の投稿に特化した Instagram を開設し、自由に動画を編集・加工ができるリール機能を使い、動画と併せて音楽やコメントを付けて畜産農家の活動を発信した。

2 成果

SNS 等を活用した情報発信について、アンケートを実施したところ、「冊子や紙だと紛失してしまうため、スマホで見られるのが良い」、「タイムリーに最新情報を取得できる」という回答が寄せられ、現在の LINE 登録者数は 50 人を超えている。また、阿東地域からは「他の地域とオンラインで研修会をしてはどうか」との声があがり、令和 6 年度には阿東地域を中心に県域のオンライン研修会が開催され約 90 名が参加した。なお、直接阿東会場にて受講する他地域の畜産農家も見られ農家同士の直接的な交流に結びついた。さらに、令和 7 年度には畜産農家の要望により子牛共励会に併せて牛の調教勉強会が開催されるなど、仲間づくりや飼養管理への意欲醸成が図られた。

3 課題とまとめ

SNS 等は手軽な情報発信が可能である一方、公的機関が運営するに当たっては個人情報の取扱いなどのコンプライアンスが重視される。そのため、発信頻度や投稿内容の制限などの課題も確認された。なお、これらはいくまでも情報発信のツールの一つとして活用し、実際に畜産農家の取組に結びつけることが重要である。